



👁️👁️ みどころ

スマホすら持たない私には、SNSの世界は無縁。そのため、“裏アカ”が“裏アカウント”の略だということすらわからなかったが、なぜ瀧内公美扮する真知子は裏アカデビューを？

一見華やかに見えるアパレル業界も、その実態は大変だから、店長になってもひとり身のアラサー女子は不安がいっぱい？一度だけ会いたい。そんな願いは男女ともに共通だが、アレこんな展開も？男なら、こんなに“安く、安全に”は大歓迎だが・・・。

後半から赤裸々にされていくヒロインの“ジキルとハイド”ぶりは如何に？1人1人自分の胸に手を当てながら、しっかり考えたい。なお、夢々自分だけは例外だと思わないように・・・。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■水アカならぬ“裏アカ”とは？なるほど、なるほど！■□■

私は弁護士として、また、映画評論家として日々情報収集に努力しているが、それでも本作のタイトルとされている“裏アカ”が何のことかわからなかった。毎年3月には、ハリウッドでアカデミー賞が発表されるが、“裏アカ”は、ひょっとしてその裏バージョン？まさか“水アカ”の類ではないはずだ。しかして、“裏アカ”のアカはアカウントの略だから、“裏アカ”とは SNS (ソーシャルネットワークサービス) の“裏アカウント”のことらしい。なるほど、なるほど。

VHS とβのビデオが大活躍していたバブルの時代には、アダルトビデオ (AV) が“裏ビデオ”としてもはやされ、それに登場する女優は AV 女優と呼ばれていたが、それも“今は昔”。また、来る5月からは大島渚監督の『愛のコリーダ』(76年) (修復版) がテアトル梅田で公開予定だが、同作の主演女優・松田英子は“本番女優”と呼ばれた。さら

に、映画での“本番行為”は“芸術かエロスか”の大論争となり、裁判にまで発展した。そこでの“本番”が何を指すかは言わずもがなだが、今年1月に72歳を迎えた私に“裏アカ”の意味がわからなかったのは仕方ない。しかし、“裏アカ”が裏アカウントの略だとわかると、何だそんなもの、と思ってしまう。しかし、その実態は？未だスマホすら持っていない私には、“裏アカ”を含むSNSの世界そのものが全く分からないが・・・。

■□■ “DX” とは？あの略語は？この大文字並びは？ ■□■

SNS が生活の一部になってしまっている若者は、“裏アカ”が何の略語かわからない72歳の老人をバカにするかもしれない。しかし、それなら逆に、若者諸君は、現在盛んに議論されている“DX”とはナニかを知ってる？

安倍晋三長期政権を引き継ぐことになった菅政権はコロナ政策に追われているが、昨年9月の就任直後に新たな目玉政策として打ち出したのが“DX”だ。そして、デジタル庁の新設も決定しているが、“DX”を「デジタル・トランスフォーメーション」と読める若者は、さて何人いるだろうか？もし、これを「デラックス」と読んでしまった若者は、その意味も意義も全くわからないはずだ。

また、森喜朗東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会会長の“女性蔑視発言”による辞任劇は、いかにも昨今の日本の風潮に沿ったバカバカしい出来事だったが、IOCとは？また、コロナ騒動で一躍有名になったWHOとは？また、IMFとは？

このように、昨今の日本には英語の大文字を並べただけの略語が氾濫しているが、これらの役割はしっかりニュースを読んでいなければわからない。ちなみに、IOCは国際オリンピック委員会の略、WHOは世界保健機関の略、IMFは国際通貨基金の略だ。これらの、英語の大文字の頭文字だけを並べた略語を理解するのは大変だ。ちなみに、毛色を変えてISとは何の略？これらの略語や英語の大文字並びの意味がしっかり分かるのなら、“裏アカ”ごときを知らなくても、決して恥じることはないはずだ。

■□■裏アカデビューのきっかけは？フォロワー数は？ ■□■

『彼女の人生は間違いじゃない』（17年）（『シネマ40』272頁）と『火口のふたり』（19年）（『シネマ45』219頁）での見事な脱ぎっぷり（？）で一躍有名になった女優・瀧内公美の本作の役は、青山のアパレルショップで店長を務める伊藤真知子。競争の激しいアパレルの世界でそれなりの実力と地位をキープしているようだが、導入部では、後輩からの猛追（？）もあって真知子は焦り気味。男にも興味を示さず、仕事一筋に頑張っているのに、このままでは・・・？そんなイライラした気持ちが仕事にも表れているようだから、危険。昔はこんな女性のことを「オールドミス」と称したが、今はそんな言葉は禁句で、「アラサー」とか「アラフォー」と呼ばなければならない。本作導入部では真知子が裏アカにデビューするまでの心理を丁寧に追っているのだから、興味ある女性は必見！

そして、ある日遂に、高級マンションに1人で住んでいる真知子が、自撮りした胸部の写真を引っさげて、裏アカの世界にデビューしてみると・・・？今なおスマホを持たず、

いわゆるガラケーで十分満足している私だが、仕事上ではパソコンによるホームページの開設やメールのやり取りは不可欠。また、その延長として、パソコンでの Facebook や、iPad での中国語サイトである weibo は活用している。そして、Facebook や weibo を始めると気になるのがフォロワー数だが、私の weibo のフォロワー数は数百人。私ですらこれくらいのフォロワー数があるのだから、魅力的な胸元の写真を載せた真知子の裏アカが拡散していったのは当然。裏アカの世界でのフォロワー数は急上昇することに。たちまち、数百から数千人へ。こうなれば、1万人の突破も間近だ。

■□■裏はあくまで裏！しかし、「会いたい」は表の世界！■□■

トランプ前大統領や橋下徹元大阪市長ら、膨大なフォロワー数を誇る著名人が、如何に情報処理をしているのか私にはわからないが、私は1日数十通のメールや weibo を確認するだけでも大変。そんな中でも、適当に新しい情報を発信しているが、それはアパレルという表の仕事の片手間に裏アカを始めた真知子も同じらしい。私は2日に1本のペースで観ている映画の評論を書き、それをサイト上に載せたり、その時々ちょっとした話題をサイトに載せるのがルーティンだが、真知子のそれは？真知子が最初に裏アカに載せたのは自身の胸の一部の写真だったが、そのフォロワー数が増えるにつれて、その後掲載する写真が少しずつ過激になっていったのは必然。しかし、裏アカはあくまで裏。それが絶対的な原則だ。

他方、男女の恋をテーマにした名曲はたくさんある。より具体的に、「会いたい」をテーマに女心を歌った名曲も多い。すぐ思いつくものだけでも、まずは園まりの「逢いたくて逢いたくて」、私のカラオケ定番である松田聖子の「あなたに逢いたくて～Missing You～」、沢田知可子の名曲「会いたい」、八代亜紀演歌のヒット曲「もう一度逢いたい」等がある。しかし、これらの名曲は裏アカの世界ではなく、あくまで表の世界を歌ったもの。ところが本作では、何を血迷ったのか、真知子は「1度だけ会いたい」とメッセージしてきた“ゆーと”と名乗る男の誘いに乗って、会う段取りを決めることに。おいおい、それはヤバイのでは……。勝新太郎の『座頭市』シリーズはたくさん作られたが、その主題歌「座頭市」で歌われたように、彼はあくまで裏稼業の人間だった。しかし、真知子はそうではなく、れっきとした表社会の人間。しかも、そこでのキャリアアップを目指している女ではなかったの？

■□■タダでOK？そりゃ男には便利！しかし、リスクは？■□■

菅総理の長男が勤務する東北新社による総務省幹部の接待問題は、山田真貴子内閣広報官の辞任によって少し収まったが、新たにNTTによる接待問題が浮上してきたから総務省問題の本質の解明はこれからだ。山田真貴子内閣広報官の飲食代は1人平均7万4000円超だったが、1985年～1991年頃のバブル時代の大蔵省による“ノーバンしゃぶしゃぶ接待”に代表されるそれは、How much？その金額にはビックリさせられるはずだが、本作ではじめて（1度だけ）会った真知子と“ゆーと”と名乗る年下の男はどこに行

くの？それを興味深く見ていると、彼が真知子を案内したのは（行きつけの？）超激安の居酒屋だったからビックリ。もちろん、お互い本名を明かさないままの会話に終始していたが、「敬語を使ったら罰金100円」と“ゆーと”が提案したルールがうまく効いたことや、食事場所がそんな風に安心できる場所だったこともあり、2人の会話はえらくスムーズだ。

私は1人のエロおやじ（じじい）として、この2人が最初に交わす会話は男からの「いくら？」というもの、そしてまた、2人がまず行くところは高級ラブホテル、そう思っていたし、そんな風に、男が望んでいる通りにコトが運ぶかどうかは、真知子が男（＝ゆーと）を気に入る（信用する）かどうかにかかっていると思っていたが、どうもそんな私の感覚は時代遅れのような感じがした。本作に見る今時の男女のSNSでの最初の出会いは、どんなもの・・・？

他方、食事後の2人が行くところは？それは絶対私が予想しているとおおり！そう思っていたが、イヤイヤ、それも大きく想定範囲外だったから、アレレ・・・。もっとも、男女がはじめて1度だけ会った、“コトの結末”は想定通りだったし、その性交渉はかなり過激なもの。また、2人が最後に交わした言葉も、“ゆーと”と真知子のそれは好対照だったから、それにも注目！こんな風に裏アカでの最初の出会いはタダでOK！それは男には便利！しかも、「会える？」との真知子からの質問に対しては、“ゆーと”の方から「1回だけの約束だよ」と答え、あっさりバイバイしたから、なるほど、なるほど・・・。これなら、リスクもなし！これなら、裏アカも悪くないかも…。

■□■あつと驚く再会は？さあ、後半の展開は？■□■

本作導入部では、アラサーのキャリアウーマン（？）真知子がなぜ裏アカにデビューしたのかを興味深く描いたうえ、本番シーン（？）を含む前半のハイライトシーンでは、“ゆーと”のスマートかついかにも手際よい1回こっきりのデートの姿を興味深く描いていく。しかし、1回だけ会いたいという裏アカの世界をここまでスクリーン上に表現すれば、本来それでストーリーは終わってしまうはず。したがって、本作の後半がどのように展開していくのかは“ネタバレ厳禁”とされるはずだが、なぜか本作のチラシの[STORY]には

ゆーとと会えないことから、裏の世界でフラストレーションがたまっていくのとは裏腹に、表の世界は、自身のアイデアが採用され、大手百貨店とのコラボレーション企画が決まるなど充実していく真知子。

やりがいのあるプロジェクトに意気込む真知子だったが、その百貨店担当者の原島努こそが、あのゆーとだった。

と書かれている。さらに、それによって真知子のココロが混乱するのは当然だが、チラシの[STORY]は、それに続いて

表の世界で再会を果たした2人。

平静を装う原島に対し、心乱れ動揺を隠せない真知子。

原島ではなく、ゆーとに会いたいという思いが日増しに募っていく。

表と裏、愛情と憎悪、真実と嘘、理性と欲望・・・

相反する2つが激しく交錯する中、

真知子に突然訪れる結末とは・・・。

と書かれている。

しかして、本作後半に見る、真知子の「ジキルとハイド」ぶりは？

2021（令和3）年3月22日記